北海道税理士会小樽支部　支部長賞

小樽市立菁園中学校　3年
工藤　朔太郎

税金が支える私たちの生活

私はこれまで、税金について深く考えたことがありませんでした。買い物をしたときに消費税を払うことは知っていましたが、その税金が何に使われているのかまでは、あまり意識していなかったからです。しかし、税について調べてみると、私たちが普段当たり前のように生活できているのは、税金によって支えられている部分がたくさんあることに気付きました。

例えば、私たちが毎日通っている学校にも税金が使われています。学校の校舎や設備を整えたり、教科書を無償で配布したりするためにも、公的なお金が必要です。私たちは普段、それらを当たり前のように利用しています。しかし、もし税金がなければ、今のような教育を受けることが難しくなるかもしれません。そう考えると、税金は私たちの学習を支える大切なものだと思いました。

また、道路や公園など、私たちの身近な場所にも税金が使われています。道路が整備されていることで、私たちは安全に学校へ通ったり、買い物に行ったりすることができます。さらに、消防や救急など、私たちの安全を守るためにも税金が使われています。普段はあまり意識していなくても、税金は生活のさまざまなところで役立っているのです。

私は野球部で活動しています。大会や練習試合で遠くの場所へ行くこともあり、そのときには道路や公共施設などを利用します。きれいに整備された道路を使って移動できたり、学校や公共施設を利用することも、税金によって支えられている部分があります。自分の好きな野球を続けられている環境も、社会全体の支えがあって成り立っているのだと感じました。

一方で、税金は誰かが負担しなければならないものでもあります。税金が必要だからといって、ただ多く集めればよいわけではありません。集めた税金を本当に必要なところへ適切に使うことが大切だと思います。そのためには、私たちも税金がどのように使わ

れているかを知り、社会のことに関心を持つ必要があります。

　私は今回、税について調べたことで、税金は単にお金を払う制度ではなく、みんなで社会を支えるための仕組みなのだと分かりました。今はまだ税金を納める立場ではありませんが、これから大人になって働くようになれば、税金はもっと身近なものになると思います。そのときに、ただ「税金を払うのは大変だ」と考えるのではなく、自分が払った税金が誰かの生活を支えていることを忘れないようにしたいです。

　これからも社会の仕組みについて学び、税金がどのように使われているのかにも関心を持っていきたいです。そして、自分が大人になったときには、社会を支える一員として責任をもって生活していきたいと思います。